

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135108		
法人名	社会福祉法人小樺アスカ福祉会		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	長崎県長崎市みなと坂1丁目6番35号		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果市町村受理日	平成23年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者中心の支援をしていくという視点で、本人が出来る事やしたいこと、残された力を活かして、職員も共に生活するという気持ちで過ごしている。その中で、認知症の進行が少しでもゆるやかになるように支援することを大切にしている。

・ホーム内は、広い居室や共有スペースでゆっくり生活でき、広いベランダからは海や山があり、自然環境に恵まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域の高齢者福祉の実情から立ち上がった施設であり、地域の声の後押しがあったことから地域との繋がりが深く、まさに地域密着の事業所である。そのため、事業所内だけに留まらず地域に向けた認知症の理解と抱える家族へのフォローを念頭に、職員が芝居仕立てで認知症を知ってもらい講座を開き、地域全体で支えるための取り組みを行っている。理念は誰にでもわかりやすく、優しい表現であり、事業所の目指す支援を表している。代表は家族や職員の意見を傾聴し、利用者の幸せに繋がることについてはハード整備も含めて積極的に反映させている。利用者ごとの個別支援計画に沿った外出支援は事業所の特長である。高齢者社会を向えた今、当事業所の地域密着の取り組みは頼もしく、今後の計画に期待が膨らむ事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に、理念とグループホームの心得を唱和している。また、法人理念の他に職員で作上げたひばりの理念があり、理念を基に仕事をするということを意識づけしている。	法人の理念を毎朝唱和し、更にグループホーム職員で作成した理念は月2回のミーティング時に唱和し共有している。職員で作った理念は全員が理解しており、利用者本位の一人ひとりのペースで生活を大切にする自分の家として暮らす事を日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りやおくんに参加している。また、当施設の行事には、地域の方を招き交流を図っている。	地域のおくんちでは職員は神輿を担いで参加しており、夏祭り町内清掃、草むしりなどにも出かけている。事業所は地域に向けて「認知症サポーター養成講座」を開き200人が受講しており、小学生の交流学習の受入れなど地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本事業所の創立記念の講演会では、認知症についてシリーズで講演を行っている。7周年講演では認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方への理解を深めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に包括支援センター、すこやか支援課の職員が参加してくれている。利用者の状況や行事内容の報告を行っている。	年6回、規程のメンバーで開催されている。議題は事業報告、入居者の状況・利用料の改定、意見交換等である。意見交換は活発で、家族から玄関ホールの暗さや災害対策に関する質問があり、検討し改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告などの連絡は取っているが、日頃のサービスなどについては伝えていない。	事業所は事故報告書の提出、認定更新時の連絡等状況報告を行い、市から現在の空き状況の問い合わせがあり情報交換している。また、インフルエンザに関する注意事項等もFAXで送られてくる等協力関係が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は職員が一人の時間19:30～7:00のみ行っている。その他身体拘束について、勉強会を行ったり、やむを得ずセンサーマットや、柵を使用する場合、ご家族に承諾を頂いている。	玄関の施錠は夜間のみ行われている。居室でのセンサーマットやベッド柵の使用についてはやむを得ない状況の場合のみとしており、事前に家族との話し合いを行い同意を得ている。言葉の拘束についても職員全員で気づきを詳細に出して対応を検討し、改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通し具体的な内容、理解を深めていくようにしている。高齢者虐待法については、どのようなことが虐待になるか職員は認識できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に勉強会を行っている。ホームでは、権利擁護を1名利用されている。月1回の訪問時は、日頃の様子を詳しく伝え、意見交換し連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず見学に来ていただくようになり、解約の際も十分な説明を行っている。改定については、家族会等や個別で説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置している。家族会では、家族と職員の意見交換を行い、そこでは、家族同士で話し合う機会も作っている。個別での相談も行い、よりよいケアになる様努めている。	職員は年1回の家族会や日常の来訪時にも声を掛けて家族の要望、意見を聞き出すよう努めている。玄関ホールの照明の暗さについて明るくして欲しいとの要望があり、自動センサーを設置するなど反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年度個人の目標と共に、要望等も記入している。職員の個人日誌を通し、意見や提案をしやすい環境である。要望等をミーティングの議題にあげ、ケアに反映できるよう努めている。	年1回、理事長による職員の個人面談が行われており、職員の一年の計画や目標、要望を聞き、資格取得のための休暇や勤務時間帯などに反映している。また、日々の申し送りやミーティング時にも話し合う環境が出来ており、利用者の入浴時に機械浴槽が導入出来ないか検討の結果、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の検討を行い、環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は月に1回行っている。また、外部研修案内も通知し、参加したい研修に行けるよう希望を出すことができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。ボーリング大会に参加したり、近隣のグループホームと事例検討発表会を行い、勉強会を通し交流を図り、質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用時は、必ず本人に会って、思いや心身の状況の把握に努め、不安を軽減するよう努めている。自宅や病院等の訪問を重ね、安心して本人が心を開けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、行事等でお会いした際は、ご家族の要望、思いをゆっくり聴くようにしている。また、入所されてからも可能な限り、要望等を受け入れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いをゆっくり聴くようにしている。グループホームの説明及び、場合によっては、法人内の各事業の説明も行い、本人に合ったサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ひばりを職場である一方、利用者様の「家」であることを頭に入れ、日常の調理、洗濯を一緒に行うことで、共に生活するという気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加や、お手伝いをお願いし、本人との関係を支えるようにしている。面会時は、日頃の様子をお伝えし、居室でゆっくりできる環境づくりも心がけている。本人の状態に変化がある場合は、家族に協力して頂き、再度アセスメントをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話の中で、馴染みの人や場所の話題をするようにしている。ひばりを利用する前の関係を継続できるよう心がけており、家族と一緒に昼食をとる方や、以前に法人内のデイサービスを利用されていた方は、来所曜日に面会できるよう調整している。	職員は利用者の自宅近くまでドライブをして、馴染みの人と挨拶を交わす機会を作る等の支援をしている。また、家族の協力を得ての墓参りや同系列のデイサービスを利用している友人の来訪があるなどの馴染みの人や場との関係継続に向けた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔からされていた家事、野菜切りが得意な方が多く、一緒に作業を行うことでよい関係が出来ている。また、認知症の状態で、会話がいき違ってしまう場合は、スタッフが間に入ることで、会話が途切れないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ行かれても、訪問を行っている。また、近隣に住む家族様にお会いした際、声をかけ様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いをはっきり伝えることができない方が多いが、センター方式を用いて、本人の立場に立つ姿勢を持ち、状況把握に努めている。	職員は食後のゆっくりとした時間を利用して利用者の思いを聞くようにしている。また、表出困難な利用者には生活歴やこれまでの支援を基に表情や動きから利用者の思いに沿うよう努めている。目が不自由な方には丁寧に言葉で説明をして、本人に意向を把握し、本人本位の支援に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との会話、本人との会話やアセスメントをもとに、全員が把握できるよう努めている。また、入所前の暮らしぶりや、生活歴を大切にしながら、日々支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握している。24Hシートを記入し、本人に合わせたケアが統一できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では、月2回のミーティング時に、個人の具体的なケアについて話し合いを行っている。家族や、かかりつけ医と相談も行っているが、それぞれの意見に反映した介護計画は不十分な面もある。	モニタリングはケアマネジャーが3ヶ月に1度行い見直している。介護計画は職員や家族の意見、必要に応じて医師の指示を反映して作成している。利用者の日々の支援には24時間シートやケアプラン実施表個別援助計画書が利用されているが、職員によって記録に差がある。	24時間シートやケアプラン実施表個別援助計画書の記録は、次の計画作成に反映するデータとなるので、全職員による記録の徹底を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に介護計画や、センター方式の用紙を使用し、計画に基づく記録をする様に努めているが、計画の見直しに活かされるように現在検討中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、家族の代わりに通院介助を行っている。希望があれば、ホーム内で家族の方への食事提供もしている。現在1家族に昼食を提供し、利用者と一緒に食事をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へ参加したり、近所のスーパーへ買い物へ行く事で、なじみの関係を作ってきたが、身体的重度化により現在は外出することが少なくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の専門医、認知症専門の協力医の紹介を行っているが、本人や家族が希望するかかりつけ医を受診するよう支援している。受診時はスタッフが同行することも多く、適切な医療を受けられるようにしている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診出来るように支援している。受診は家族同行としているが、場合によっては職員が同行しており、受診結果報告は相互に行い、情報を共有している。歯科や内科の往診もあり、高齢者の無料定期検診も利用するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態、バイタルサインの状態を、随時看護師に報告している。また、変化がある場合は早めの受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合も定期的に訪問し、状態把握や家族より情報も得ている。また、ホームでの様子も積極的に伝え、情報支援を行い、治療が終了すれば、早期に退院できるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に方針について説明を行っている。途中で変化がある場合も話し合いを行っているが、取り組んだ経過はまだない。また、ご自身で伝えられない方が多く、家族との話し合いがほとんどである。	契約時に利用者、家族に重度化した場合や看取りについて説明をしている。利用者の状況に応じて段階的に家族に説明し同意を得ている。現在までに看取りの実績はないが、事業所に対応出来る場合には看取りに取り組むこととしており、職員にも説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署と連携をとり、定期的に救急蘇生法の訓練を行い、職員が冷静に対応できる実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員による避難訓練を定期的に行い、身につけている。また、災害時に備え、備蓄するものを話し合い、必要物品の把握につとめている。	年2回、夜間想定避難訓練を事業所単独で実施している。また、災害時に必要な備品等はリスト化して備蓄しており点検が行われている。ただし、消防署の指導、消防団の協力を得ての避難訓練は実施されていない。同建物内の小規模多機能ホーム、デイサービスとの共同の訓練も実施されていない。	避難訓練は消防署の指導を仰ぎ、地域消防団の協力を得て、実施されることを期待したい。また、同建物内の他施設と共同での訓練など、1階玄関ホールに喫煙室があることも含めて実際の災害を想定し、協力体制整備の検討も望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のコミュニケーションを通し、本人が安心できる言葉かけを心がけている。人生の先輩という思いを大事にしながら、地域の言葉や、使い慣れた方言で話しかけている。	職員は利用者に対する尊敬の念を持ち、適度な大きさの声で優しい思いで接するよう努めている。呼び名は家族に尋ね、敬語だけでなく本人の馴染みの言葉で話しかけている。個人情報 は所定の場所に保管し、写真掲載も同意を得た方のみとしており、プライバシー保護の対応も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなかご自分から思いを伝えられない方は、本人の意思が表現できるような問いかけや、自己決定を重視し業務を行っている。日々のコミュニケーションを通し、表情の変化や、様々なサインを見逃さないよう心がけている。家族より情報も得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れは決まっているが、あくまでも本人の体調やペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を決める方は少ない。体温調節が難しい方は、機能性を重視する場合もある。衣服の乱れに注意し、本人の部分的に出来る事を大事に支援している。化粧水を使用している方もいらっしゃる、行事等ではお化粧をする機会もつくっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は立位が困難な方が多く、座ったまま出来る事を中心に、みんなでテーブルを囲み野菜切り、おぼん拭き等されてる。見た目も大切に、ミキサー食の方も彩りよく盛り付けている。	栄養士が栄養バランスを考慮し一週間毎に献立を立てている。季節の食材や家族からの土産等を利用したり、敬老会、ひな祭り、クリスマス、誕生日などの行事食や外食の対応も行っている。準備・片付けも利用者が出来る事を一緒にに行い食事する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の好みや量を把握し、バランスを考え食事提供している。摂取困難な方は、高カロリー剤で補っている。また、食事摂取量のチェック表を作成し、職員間で摂取量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせ、声をかけたり介助を行っている。歯ブラシや義歯用の特殊ブラシやスポンジ等で口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的に歯科衛生士の訪問があり、指導を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを把握できるよう、チェック表をもとに誘導している。また、パットを使用している方も出来る限りトイレで排泄できるよう、本人のサインも見逃さないようにしている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するためのチェック表を作り、失禁しないよう誘導に心がけている。パッドを使用する場合は、事前に本人に声を掛けている。利用者の表情や体勢によるサインを見逃さず対応出来るよう見守りが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んだり、バランスの良い食事 で下剤に頼りすぎないように取り組んでいるが、運動の働きかけが不十分である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めていない。1日の中で決まった時間帯の入浴になっているが、入浴前は本人に確認し、一人ひとりの体調や、タイミングに合わせた対応を心がけている。	少なくとも週2回は入浴するように支援している。入浴は午前中の時間帯で、利用者が入浴を楽しめるよう入浴剤や季節感のある菖蒲湯など工夫している。入浴出来ない時は清拭で対応している。車椅子の利用者は機械浴槽での入浴が出来るなど、入浴の希望に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を取り入れながら、休息の声かけ、介助を行っている。また、安心して眠れるよう音楽を流している。夜間十分な睡眠が取れない方は、かかりつけ医に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の名前や、作用が書いてある表を作成しており、服用前は必ず確認するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてこられた、家事、洗濯を行いながら生活している方が多い。日中は音楽を流している。なじみの曲を選曲しており、自然と口ずさむ方も多い。気分転換にビデオ鑑賞や、1ヶ月に1回行事を行い、季節の流れを楽しんでいただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、花見、夏祭り、おくんちやドライブ、個別でのプランを取り入れ、外出の機会を作っている。天気が良い日は、外へ出かけるようにしているが、その日の希望に添うことは難しい。ドライブへ行く時はなじみの場所や、景色の良い場所を通っている。	利用者の希望を聞き取り、ドライブ・観覧車・お墓参り等一人ひとりの計画を立て個別に支援している。また日々の買い物や受診時の外出、気候の良い季節には散歩するなど努めている。外出が困難な方はベランダでの外気浴で気分転換を図るなど個々に対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理が難しい方が多く、自身でお金を使うことはほとんどない。個人の預かり金を事務所で管理しており、欲しい物は購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、その都度対応しているが、手紙のやりとりを希望される方はいない。本人の代わりに職員が定期的に家族と連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度は随時チェックし、一定の室温を保っている。施設内には中庭もあり、光も取り入れ花を飾ったり、季節を感じられるよう(雛人形、五月人形、七夕の笹、クリスマスツリー)家庭的な雰囲気を大事にしている。	共有空間の清掃、温度・換気・採光は職員が行っており、清潔で居心地のいい空間となるよう配慮している。また、施設内の中庭や和室も利用者の心安らぐ空間となっており、季節を感じる飾り付けや行事などの写真の掲示物も利用者のために工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファをコの字型に設置し、みんなで談笑できる空間を作っている。また、窓側付近にも別のソファを設置し、一人で過ごしたい方が移動できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に表札(名札)をする事で、自分の部屋であることの安心感をもたれている。また、なじみのものは持ってきて頂くよう、家族に伝えているが、本人と相談することが難しくなっている。	位牌、タンス、テレビ、写真など利用者の馴染みの物が持ち込まれており、居心地の良い居室となっている。ポータブルトイレが置かれている居室もあるが毎朝換気しており、気になる臭気はない。清掃は職員が行い、明るく快適な居室となっている。ただし、ポータブルトイレがそのまま置かれている。	居室のポータブルトイレは、使用しない時間帯は目隠しするなど、利用者の居心地のいい部屋となるよう工夫することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示は、利用者の目線に合わせている。また、移動時は手摺やソファをつたって安全に歩けるよう、動線に配慮している。視覚障害の方に対して、一人でホーム内を動けるよう目印(リボン)をつけ、環境整備に努めている。		